

複製 (PDF化を含む) 禁止

転載・配布禁止

※記事利用の際は、別途新聞社への申請が必要です。

令和4年1月20日付 北國新聞2面

現場使用可能な新型コロナウイルス変異株RNA検出システムの開発と開発途上国・新興国での性能評価  
キックオフフォーラムの開催について

令和4年1月14日にプレスリリース



「北陸と交流促進を」

北陸② インド大使が表敬

駐日インド大使のサンジ  
エイ・クマール・ヴァルマ  
氏の写真は19日、県庁で  
谷本正憲知事と懇談し、「ま  
ずはバーチャル上で北陸と  
交流したい。ゆくゆくは現  
地でも期待している」と述  
べた。

ヴァルマ氏は、北陸先端

科技大学院大で行われたフ  
ォーラムに出席するため石  
川入りした。同席したマニ  
ッシュ・ビヤニ同大特任教  
授が新型コロナウイルス感染を短時

間で判定する検査方法を開  
発したことに触れ「既にイ  
ンドで治験が始まっている。  
世界のための技術開発  
に期待している」と述べた。  
谷本知事は「誰もが待ち  
望んでいるテーマ。石川と  
インドの絆がより強固にな  
る」と話した。同大使館のウ  
シャ・ディクシット科学技  
術担当参事官が同行した。

複製 (PDF化を含む) 禁止

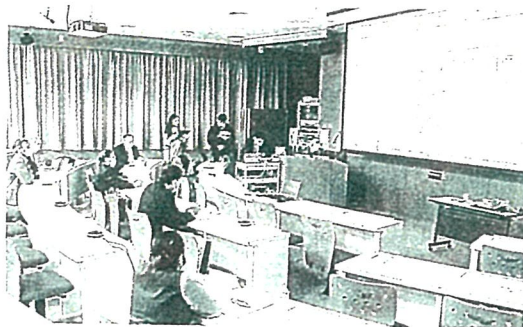
転載・配布禁止

※記事利用の際は、別途新聞社への申請が必要です。

令和4年1月20日付 北國新聞 30面

現場使用可能な新型コロナウイルス変異株 RNA 検出システムの開発と開発途上国・新興国での性能評価  
キックオフフォーラムの開催について

令和4年1月14日にプレスリリース



北陸先端科技大学院大で  
19日、同大などの研究チームが開発した、短時間で新型コロナウイルスの感染を

短時間で感染判定  
1/20 北國 30  
コロナ検査法に理解  
先端大でフォーラム

判定する検査法に関するフォーラムが開かれ、国内外の研究者らが実用化に向けて技術に理解を深めた。

ビヤニ・マニシュ特任教授らが開発した検査法は、採取した唾液に試薬を混ぜて加熱し、ウイルスの遺伝子を増幅させて調べる。結果判明までの所要時間は15〜30分で、試薬と小さな加熱装置さえあれば、その場で迅速、大量に検査できる。特任教授の母国インドで感染を制御するため、社会実装の研究が始まった。

フォーラムには約20人が出席したほか、国内外の研究機関や企業の協力がオンラインで参加し、研究成果の発表に耳を傾けた。在日インド大使館のサンジェイ・クマール・ワアルマ大使があいさつし、成果に期待を寄せた。

新型コロナウイルスの検査法実用化へ理解を深めたフォーラム  
北陸先端科技大学院大

複製(PDF化を含む)禁止

転載・配布禁止

※記事利用の際は、別途新聞社への申請が必要です。

令和4年1月20日付 北陸中日新聞 12面

現場使用可能な新型コロナウイルス変異株 RNA 検出システムの開発と開発途上国・新興国での性能評価  
キックオフフォーラムの開催について

令和4年1月14日にプレスリリース

# コロナ新検査法の 実用化へ県も連携

## インド大使が知事訪問



高精度で迅速な新型コロナウイルス検査法の実用化研究などについて語るサンジェイ・クマール・バルマ駐日インド大使(右)＝県庁で

新型コロナウイルスの新たな検査法の実用化を目指すインドと日本の共同研究の開始に合わせ、駐日インド大使のサンジェイ・クマール・バルマさんが十九日、県庁を訪れた。新たな検査法は微量の唾液で迅速に感染を判定でき、コストも安い上にPCR検査並みの信頼性がある。谷本正憲知事は「新型コロナウイルス対策に

取り組む誰もが待ち望んでいる。県も実証実験に参加したい」と求めた。新たな検査法は、北陸先端科学技術大学院大(能美市)のマニシュ・ビヤニ特任教授(酵素化学)らのチームが開発。装置の開発では県の補助金も用いた。PCR検査と違い、高価な装置を使って温度変化を繰り返す必要がなく、唾液を採

取した現場で約十五〜三十分で陽性が陰性が分かる。同大のベンチャー企業「バイオシーズ」などがインドを拠点に一月、実用化の研究に乗り出した。またバルマ大使は、十九日に同大であった研究開始の式典で、米シリコンバレーのようなベンチャー企業の拠点を北陸地方につくる意見があったことも紹介

し、「コロナ下のため、県など北陸地方とインドの企業がまずはオンラインで交流していったら」と提案した。県庁にはインド大使館のウシャ・ディクシット参事官、ビヤニ特任教授も同行した。(押川恵理子)